



# カイゼンニュース

KN

2019.3 編集/発行 都市戦略本部 行財政改革推進部

「全国都市改善改革実践事例発表会」が2月22日に愛知県豊橋市で開催されました。

この発表会は、全国32の自治体が改善事例の発表を行うもので、本市からは、平成30年11月12日の「第9回カイゼンさいたまッチ」で最優秀賞を受賞した南区役所支援課が出演し、業務シェアについての事例を発表してまいりました。

## ＜南区役所支援課 発表事例 概要＞

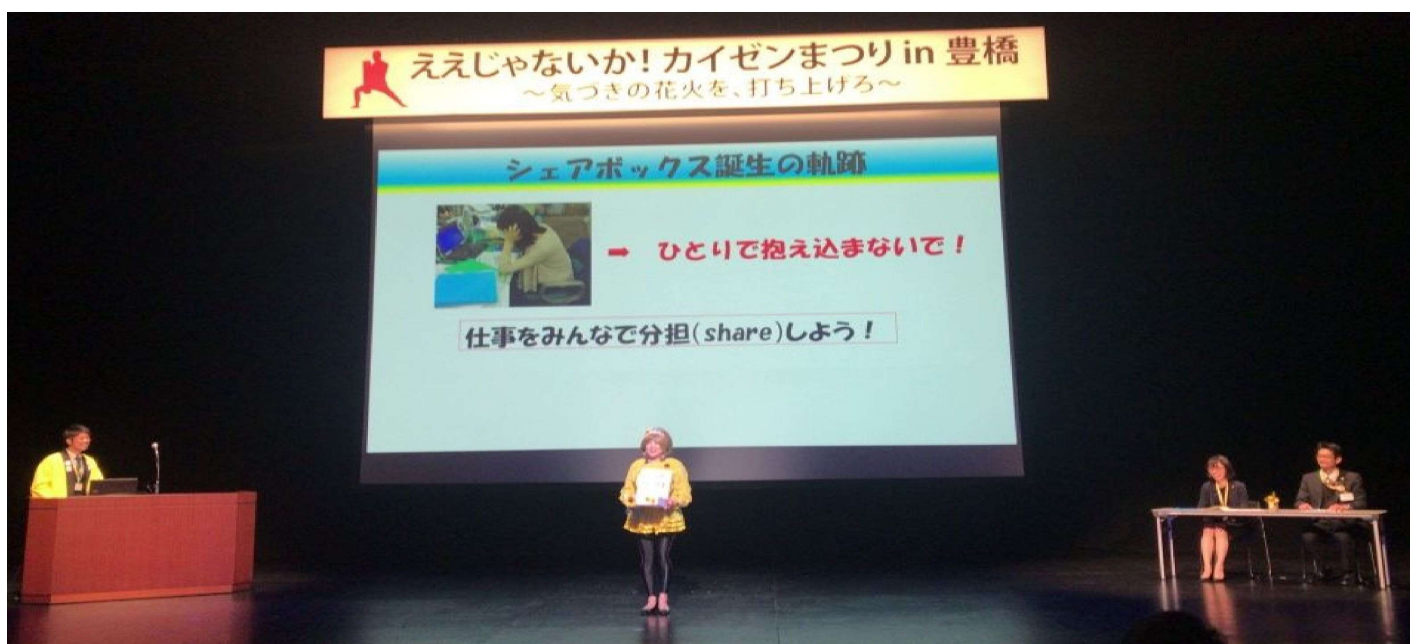
「～ひとりで抱えこまないで～シェア (share) ボックス」

★職員の仕事を平準化し、時間外勤務を削減した取組★

日々の業務においては、誰かに頼みたいけどお願いしにくい、手伝いたいけど忙しそうで声をかけにくいことがあるものです。そこで、「シェアボックス」を設置し、システム入力や発送物の準備などの単純作業を中心に、業務をシェアしやすい仕組みをつくりました。「シェアボックス」の使い方は、時間外勤務が生じてしまいそうな職員が、頼みたい仕事を記載した依頼票を入れ、少し手の空いた職員が、処理していくというシンプルなものです。

「シェアボックス」の設置前から、職場のコミュニケーションは良く助け合いながら業務を行っていましたが、「先輩には直接頼みにくい」等といった遠慮も見受けられたため、更なる業務シェアの浸透を目的に設置したものです。

シンプルな仕組みながら、南区支援課の障害福祉係では、各職員の時間外勤務を平準化するとともに、平成29年度と比べ平成30年度は、上半期で約51時間の時間外勤務の削減を実現しました。



※ 課長自らが、区の花「ひまわり」の妖精として熱演！！

## ＜発表の様子＞

日頃のチームワークを発揮し、南区の花ひまわりのように明るく元気な発表で会場を盛り上げました。特に、締め挨拶で、課長自らが、ひまわりの妖精役を演じていたことが伝わると、会場がどっと沸きあがりました。

観覧者からは、課長のリーダーシップを称える声や、「うちの市でもマネしたい」との声が多く寄せられました。